



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 地學 1951, 4

ISSUE DATE:

1951-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186234>

RIGHT:

# 地 學

京都大學理學部

地質學鑛物學教室編集

4

1951, March

京都府夜久野地方の地質構造

……………中 澤 圭 二(1)

近畿花崗岩における Th ハロの分布

……………早 瀬 一 一(7)

北海道宗谷岬附近の地質

……………衛 藤 俊 治(13)

岩石の力學的性質に関する問題

……………西 原 正 夫(23)

温泉・鑛泉のラドン測定法について

……………初 田 甚 一 郎(26)

和歌山縣友ヶ島の水源調査

……………竹 中 準 之 助(33)

講 座

化石整形術 (3)……………加藤不二男(37)

# SCIENCE OF THE EARTH

No. 4, March, 1951.

---

## *Original Articles*

- The Geological Structure of the Yakuno District, Kyoto Pref.,  
Japan.....Keiji NAKAZAWA (1)
- On the Distribution of Thorium Halo in the Granites of  
Kinki District, Japan .....Ichikazu HAYASE (7)
- Geology of the Cape Soya District, North Hokkaido .....Toshiharu Eto (13)
- Some Problems on the Mechanical Properties of Rocks...Masao NISHIHARA (22)
- On the Measurements of Radon Content in Hot or Mineral  
Springs .....Zin'itiro HATUDA (26)
- Underground Water of Tomogashima, Wakayama Pref.....  
.....Junnosuke TAKENAKA (33)

## *General Reviews*

- Fossil dressing (3) .....Fujio KATO (37)
- 

昭和24年、京都大學理學部地質學鑛物學教室に於ては、新興地學の普及と學術的貢獻を目指して雑誌「地學」の發行を計畫し、本教室員のみならず廣く一般の原稿を集め年4回の發行を豫定した。其の後時を同じくして種々の官廳或は研究機關から此の種の印刷物が出版され、多くの地學的業績が發表されたが、其の反面本誌の特殊性或は出版目的というものが餘り意味を持たなくなり、一方では出版事情、經費面其の他の理由で繼續し得なくなつた事は誠に遺憾である。然し乍ら終戦後の混亂期に當初の目的であつた地學の普及に關して何等かの寄與が出来たとすれば編集委員のみならず當教室員一同誠に欣快の至りである。本誌休刊に際し、全國地學愛好者諸氏の絶大なる御支援を謝すると共に、既發行1號から4號迄の豫定が極めて遅延した事を深くおわびする次第である。今後當教室の研究業績は「學術報告」を復刊し、此れに順次發表する豫定である。

---

 雜 報
 

---

## 金浦炭田文珠山礫岩層の地史的意義

高 橋 英 太 郎 \*

朝鮮の大同統(下部大同系)は既に小林教授<sup>(1)</sup>によつて指摘せられた様に大別して平南黃海地向斜内にあるもの、沃川地向斜内にあるもの及び京畿地塊にあるものゝ3様ある。<sup>(2)</sup> そのうち平南黃海及び沃川兩地向斜内にあるものは大同統後の大寶フェーズの運動によつて著しい變動をうけ衡上、鱗片構造を呈している。即ち平壤、兼二浦、寧越、旌善、丹陽、開慶の諸地域の大同統はそれである。之等では大同統前の松森フェーズの運動より大同統後の大寶フェーズの運動に至るまでの細かい経緯に就いては既に諸氏に依つて明かにされたところである。ところが大同系後の地層としては熱河統、洛東統を欠いて直ちに大寶系又は新羅統が乗つているのでこの大寶フェーズの運動のくわしい下限が判らない。

次に京畿地塊に於けるものは地向斜の堆積岩層上に乗るものでなくて、結晶片岩又は花崗片麻岩類上に直接不整合に乗っているものであつて、之に京畿道金浦及忠清南道藍浦の兩炭田がある。<sup>(3)</sup>

金浦炭田の大同統は下部の英炭通津層と上部の文珠山礫岩層よりなる。渡邊貫博士によると<sup>(4)</sup> 通津層の基底部礫岩には砂岩、粘板岩を礫としてもつという。この砂岩、粘板岩が何處から運ばれたものであるかは今のところ明かでないが一つの問題である。通津層の上に乗る文珠山礫岩層<sup>(4)(5)</sup> は、礫として中生層よりと考へられる砂岩及頁岩を持つている。この礫が下位をなす通津層より來たと考へる以外に解き様がない。即ち本域では一方では通津層より引きつづいて文珠山礫層が堆積すると共に、他方では通津層が剝削を受けて文珠山礫岩層の材料となつたと解すべきである。即ちこゝに堆積區の1部が剝削區に轉ずる如き大規模な傾動的な造陸運動がおきたと考へられる。

平南黃海及び沃川兩地向斜内の大同統は江原道の盤松層のうち旌善郡の1部を除いてはその上部に礫岩層を夾むことはない。即ち激しい變動である大寶フェーズの運動は既に中村教授によつて述べられた如く、複雑な衡上

構成を作るものではあつたが山脉を作るが如き型式(造山)のものではなかつたらしい。<sup>(6)</sup> 然るに金浦炭田に於ける大同統末期の運動は之と反對に複雑な構造を作るが如きものでなくて、その代りに傾動的造陸運動であつたと云へよう。この運動がすでに文珠山礫岩層の堆積中よりおきたものであることは前述の通りである。

同じ京畿地塊中の藍浦炭田<sup>(7)</sup> で見ると、その大同統の上部をなす坪里變岩層及び玉馬山層に多量の珪岩礫をもっている。即ちこゝでも大同統の上部になつて傾動的造陸運動がありその爲めに何處からかの古生層の珪岩が運ばれて來たと云いうる。たゞその運動が金浦炭田の場合ほど甚しくなかつたと云うべきである。

即ち朝鮮の大同統中、京畿地塊におけるものは既にその末期より新しい傾動的造陸運動が開始されたと見るべきで、之は平南黃海及び沃川兩地向斜とは餘程様子を異にしていると考えられる。即ち兩地向斜の大寶フェーズの運動とは別の運動として識別し、之を文珠山フェーズの運動と稱し度い。

- 
- (1) 小林貞一、下部大同層基底の不整合の意義(地質學雜誌. 37卷, 447號. 昭和5年)
  - (2) この他大同統として平安北道清城鎮、雲松里、咸鏡南道仁興里、上農里、咸鏡北道清津があるが茲には取扱はない。
  - (3) 京畿地塊にはこの他京畿道坡州、忠清南道唐津に小區域大同統あるも局部的であるので省く。
  - (4) T. Watanabe: Geology of the Tonjin District, Kyonggui-to, Korea. 東大卒論. 大正12年)
  - (5) 高橋英太郎: 京畿道金浦郡月串面高陽里石炭調査報文(朝鮮鑛業. 6卷 1號, 昭和14年)
  - (6) 中村新太郎: 朝鮮地質構造論序説(地球 8卷 5號, 昭和2年)
  - (7) 島村新兵衛: 5萬分1青陽、大川里、扶餘及藍浦地質圖幅(昭和6年)

\* 山口大學文理學部地學教室

## 地 學

第 1 號

定 價 ￥ 1 2 0 千 円 1 2

### 研究報告

- 南滿洲小市炭田の地質に就て……………小 島 信 夫  
富山縣西部及石川縣東部の第三紀層……………池 邊 展 生  
重力測定に於ける振子臺共振の土地による相違……………熊 谷 直 一  
山東省棲霞縣唐山地方霞石玄武岩に就て……………春 本 篤 夫  
含ニッケル紅土の研究……………田久保實太郎・鶴飼保郎

### 講 座

- 地球及岩石鑛物の年齡決定法……………初 田 甚 一 郎  
化石整形術(1)……………加 藤 不 二 男

## 地 學

第 2 號

定 價 ￥ 1 2 0 千 円 1 2

### 研究報告

- 鐵明礬石の研究……………田久保實太郎・齋藤光惠・港種雄  
油田地下構造と石油比重との關係……………木 村 春 彦  
富山縣及石川縣の地質學的研究(其の2)……………市原實・石尾元・森下晶・中川衷三・津田禾粒  
青森縣の層準について……………湊正雄・深田淳夫  
淡路島志筑ノークライトの産狀とそれに基づく考察……………吉 澤 甫  
山口縣西北部の硯石統に就いて(豫報)……………高 橋 英 太 郎  
京都府加佐郡河西村地方の石灰岩礫岩の時代……………中 澤 圭 二

### 郷土の地質

- 京都府地質誌……………松 下 進

## 地 學

第 3 號

定 價 ￥ 1 2 0 千 円 1 2

### 研究報告

- 粘土鑛物に關する研究……………田久保實太郎・上田健夫  
富山縣及石川縣の地質學的研究……………池邊展生・市原實・石尾元・小泉五郎・澤井清  
領家帶超鹽基性岩の花崗岩化の一斷……………吉 澤 甫  
田ノ上山花崗岩接觸帶における Extinct Halo Type A……………早 瀬 一 一  
新潟縣西頸城郡下の新生代について……………藤本信治・藤田和夫・駒谷郁夫・  
森下晶・澤井清・隅田實  
石油と放射能……………初 田 甚 一 郎  
平地地塊の基礎岩類の分布について……………高 橋 英 太 郎

### 郷土の地質

- 京都府地質誌(つづき)……………松 下 進

### 講 座

- 化石整形術(2)……………加 藤 不 二 男

昭和26年3月25日印刷

昭和26年3月30日發行

地 學

定 價 ￥ 1 2 0.00

千 円 1 2.00

編 集 者

京 都 大 學 理 學 部

地 質 學 鑛 物 學 教 室

印 刷 所

大 日 本 印 刷 株 式 會 社

京都市右京區太秦上洞部町十



# SHIMADZU RADIOSCOPE

新製品

## H.S 放射能測定器

御指導  
京都大學地質學鑛物學教室  
初田助教授

- ☆温泉、鑛泉、天然ガスのラドン定量に
- ☆鑛床探査や潜在斷層の位置決定に
- ☆鑛物、土壤の放射能測定に

すぐれた性能

絶大の信頼性

を有する本器を是非御試用下さい。

在來の泉効計の缺點を除き、保温乾燥装置、起電裝置自藏、輿電容易、自然放電率微小、電離槽分解容易、二重電離槽により短時間に反覆測定可能、等の特徴を有して居り、特に US Standard Bureau のラジウム標準液によつて一臺毎に檢定してあります。

詳細は御照会を乞う

カタログ進呈



### 島津製作所

本社 京都市中京区河原町通二條南  
支店 東京・福岡・大阪・名古屋・札幌